

国民体育大会のあり方に関する一考察 A Study of the Shape in National Sports Festival

1K09B021-1

指導教員 主査 友添秀則 先生

伊藤康宏

副査 松井泰二 先生

【動機及び目的】

2016 年に私の地元である岩手県で第 71 回国民体育大会（以下「国体」と略す。）が開催される。岩手県では国体に向けて 10 年ほど前から、小学生アスリートの育成などが行われていた。私も、高校生の時から合わせて選手として 4 度国体ブロック予選に参加し、国体独特の雰囲気を楽しんだ。国体に参加するなかで、インターハイや高校選手権など他の大会にはない、選手の強化策や開催県が優勝する点に疑問を抱いた。国体がどのような背景で始まり、何を目的としているのか、また、どのような問題が存在するのかについて問題意識を抱いた。

そこで、大学の卒業研究として国体について取り上げたいと考えた。私は大学卒業後、岩手県の教員として働くこととなるため、4 年後の岩手国体では、選手としても教員という立場としても、国体に関わっていく。そこで、本研究では、国体の歴史や抱えている問題を明らかにし、「国体改革 2003」が施行される背景や目指しているものを考察し、今後の国体のあり方に対して提言を行うことを目的とした。

【方法】

権学俊の「国民体育大会の研究—ナショナリズムとスポーツ・イベント」を中心に考察を進める。他にも、日本体育協会 HP や国体に関する文献を用いて研究を進める。

【第1章】

第 1 章では、国体の歴史について検討した。戦後、体育・スポーツの考え方が見直され、「純正なスポーツの復活」、「大衆化」、「民衆化」が目指されたなか、1946（昭和 21）年に国体は始まった。国体は、戦前に開催されていた「明治神宮大会」と目的や性格が非常に類似して、名前だけを変えて再生した大会であった。

その後、1960（昭和 35）年第 10 回大会の時に、「国民体育大会に関する基本方針」が制定された。1970 年代に入り大きな問題を抱えた国体は、「国体反対運動」や「国体返上運動」なども起こっていた。そんななか、日本体育協会が、国体の維持・発展に精力的に取り組んだ歴史があった。

【第2章】

第 2 章では、国体の問題点について検討した。第 19 回新潟国体から第 67 回岐阜国体まで、第 57 回高知国体を除いて全ての大会で、開催県が天皇杯を獲得している。これは、開催地が有利になるようにルールが変更されたり、地元で有利

な組み合わせやジャッジ、さらには過剰すぎる選手強化策等が行われているという問題が存在した。

国体に対する国の特別な補助制度がほとんどなく、既存の施設を利用できるのにもかかわらず、新しい施設を作ったり、選手強化費に多額の金額をかけることによって、地方財政の大きな負担となっていた。

学校現場でも多くの課題が生じていた。マスゲームのために強制的に子どもたちが動員されたり、教職員が競技役員を兼ねることによって授業が自習となる問題が存在した。子どもたちは国体を否定的に捉え、体育嫌いの子供をつくる一因にもなっていた。

【第 3 章】

第 3 章では、国体の今後のありかたについて検討した。2002 年高知国体は、「変革国体」であった。高知県の橋本大二郎知事により、新しい試みで開催された。最小経費で最大効果を上げることを強調し、様々なイベントを縮小し、多くの予算を削減した。行き過ぎた選手強化も行わず、天皇杯は東京都採り、高知県は 10 位であった。38 年間続いた開催県が優勝するという方程式は終わった。本研究では、高知国体が今後の改革のヒントになる国体であると考えられた。

また、2003 年に「国体改革 2003」が策定され、その背景には、参加削減数と施設の弾力的運用などの「簡素化」と「最高レベルの競技水準の追求」を目玉とした 2002 年 3 月に「中間まとめ改革案」が発表されていた。「国体改革 2003」は、「大会の充実活性化」、「大会運営の簡素・効率化」を二本柱に、新しい国体を求めて策定されたのだ。国民体育大会の果たしてきた意義と役割を再確認し、国体を変革しようとしているのがよく分かる内容であった。しかし、国体は特に変化することなく、現在まで進んできてしまっていることが今後の課題であった。

【結章】

結章では、本研究のまとめを行った。国体は、「戦後の荒廃によって健全な娯楽を失った国民、特に青少年にスポーツの喜びを与えたい」という目的で始まり、多くの問題を抱えながら、現在は国体改革 2003 を中心に改革に取り組んでいた。

私は、このままの状態での国体ならば継続する意味がないと考え、トップのアスリートだけでなく、国民誰もが参加できるそんな国体でありたいと提言した。